

「改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）」に関する  
大田区区民意見公募手続（パブリックコメント）の実施結果等について

1 大田区区民意見公募手続（パブリックコメント）

(1) 実施期間

令和4年1月17日（月）から2月4日（金）まで

(2) 閲覧方法及び閲覧場所

区ホームページ、鉄道・都市づくり課、区政情報コーナー、特別出張所、ふれあいはずぬま、北蒲広場、大田文化の森（情報館）、大田区産業プラザ PiO、図書館

(3) 意見及び内訳（詳細は別紙1、2のとおり）

提出者数 計16名（電子申請13名、持参3名、FAX0名、郵送0名）

No.	種別	件数
1	計画全般に関すること	12件
2	【商業】分野に関すること	3件
3	【産業・ビジネス】分野に関すること	1件
4	【暮らし】分野に関すること	1件
5	【観光】分野に関すること	1件
6	【駅・駅前広場】分野に関すること	4件
7	【歩行者空間】分野に関すること	2件
8	【交通】分野に関すること	3件
9	【建物】分野に関すること	2件
10	【防災】分野に関すること	1件
11	【ユニバーサルデザイン】分野に関すること	1件
12	【自然・環境】分野に関すること	6件
13	その他	2件
合計		39件

(4) その他

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より、区民説明会の代替として、以下のとおり、YouTube（公式大田区チャンネル）において素案の説明動画を配信した。

【配信期間】令和4年1月20日（木）から2月4日（金）まで 【再生回数】969回

2 改定案について（別紙3、4のとおり）

パブリックコメント及び専門部会等のご意見を踏まえ、別紙のとおり、改定案をとりまとめ、令和4年4月改定を目指す。

## 改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）に対する大田区区民意見公募手続（パブリックコメント）に提出されたご意見の要旨と区の考え方（概要）

（募集期間：令和 4 年 1 月 17 日～2 月 4 日、意見総数：16 名、39 件）

No.	分類	意見要旨	区の考え方
1	計画全般	対象地区は、住宅ばかりの地域と駅前では全く違う、取り組みも違ってくると思う。	地区全体を 5 つのエリアに区分し、エリアの特徴に応じメリハリをつけた取組を推進します。
2	〃	グランドデザインの実現に向けて、駅周辺基盤施設の一体的整備が重要である。整備方針の早期策定を期待する。	JR・東急蒲田駅前はまちの骨格となる地区内拠点として、基盤施設の一体的整備に向けた検討を推進します。
3	〃	地区全体の回遊性向上・にぎわい創出のため、連携施設の有効活用に向けた積極的な検討を期待する。	地区の活性化、利便性及び防災性向上のため、施設側の状況や意向を踏まえた検討を進めます。
4	〃	土地の高度利用と区民ニーズに合った、複合用途化を柔軟に実現することが必要である。	4 章「拠点・軸・エリアのまちづくり」において、各場所で重点的に取り組む各種方策を示しているが、特定用途だけでなく、複合市街地の特徴を活かしながら、各場所に必要な用途を誘導します。
5	〃	まちの将来像は蒲田でなくても当てはまる。蒲田駅周辺に合う明確なコンセプトを出してもらいたい。	地区の役割やまちの特徴、課題等を勘案し、まちの将来像を導き出しています。
6	〃	自由通路による駅東西の一体化は良いが、駅から人を導くにはソフトとハードの方策が必要である。	駅からまちへと導き、活力やにぎわいを創出するため、利活用を見据えた空間形成を検討します。
7	〃	人口減少やアフターコロナを踏まえた、まちづくりの考えを示してほしい。	都市の構造は、急速に変化するものではなく、国や東京都とも連携しながら柔軟に対応します。
8	〃	災害対策は重要だが、蒲田ならではの景観を変えてしまうと、まちの魅力が損なわれる。	
9	〃	まちづくりのイラストから、多くの商店や飲食店が入れ替えられてしまう状況を想定してしまう。	蒲田らしさをまちの特徴と捉え、特徴を踏まえた将来像や具体的な取組を進めます。
10	〃	再開発等により下町の風情や小規模の飲食店が作り出している食文化が失われてしまう恐れがある。	
11	〃	まちづくりで一番重要なことは、人だと考えるので、分野別方針の 1 番は暮らしであるべき。	分野別方針の番号は、優先順位を示すものではありません。エリアの特徴に応じた取組を進めます。
12	〃	グランドデザインは、絵空事である。	グランドデザインは 20 年先を見据えており、持続的に発展するまちづくりを進めます。
13	商業	商店街は衰退しており、蒲田駅の東西自由通路の整備だけで十分である。	商店街や個性的な店舗はまちの魅力です。駅ビルの機能更新だけでなく、商業の集積にも取組みます。
14	〃	蒲田は、商店街などで賑わう街なので、駅ビルだけでなく商業に力を入れるべき。	まちの魅力である商店街が持続的に発展するよう、商業の集積と担い手支援等に取組みます。
15	〃	新たな取組として、商店街等のイベントで、どれほどの来場者や利益を見込んでいるのか。	公共空間やオープンスペースを活用したイベントの開催や戦略的な PR 活動を支援し、多くの来場者の誘因やにぎわい形成を図ります。
16	産業・ビジネス	まちなかの働きやすい場所（機能）を誘導するための都市計画施策にはどのようなものがあるか。	再開発に伴う機能導入や空きオフィス・空き家の活用（リノベーション）、各種法令の許可制度の活用等が考えられる。地区や社会状況を踏まえ、適切な手法を選択していきます。
17	暮らし	蒲田は「大人」や「男」のまちのイメージが強い。女性や子ども、高齢者に対する施設が少ない。	分野別方針 10 において「誰もが使いやすく、人にやさしいまち」に向けた方針と取組を示しています。
18	観光	グレードアップしたシティホテルがあると、まちの質も上がる。検討はしているのか。	社会状況や市場動向を踏まえ、都市計画制度等を活用しながら、効果的な方法を検討します。
19	駅前広場	駅東西の移動が不便である。ペDESTリアンデッキやコミュニティバスが出来たら良い。	東西自由通路の整備により回遊性や利便性の向上を図るとともに、交通モードの活用も研究します。
20	〃	災害時の機能不全や乗換時間の増加等を総合的に勘案し、新空港線整備のあり方を見直すべき。	
21	〃	新空港線の整備は実現性があるのか。実現しない場合の損失などは考えているのか。	新空港線は、利便性の向上と蒲田の活性化に重要な施策です。今後の都市づくり政策に活かします。
22	〃	新空港線の乗換利便性を向上させる具体的なアイデアがないと、移動円滑化は達成されない。	
23	歩行者空間	歩行者空間の確保は重要である。濡れずに移動できる連絡通路を期待する。	道路空間の再編等により、魅力ある歩行者空間やストリートを創出します。
24	〃	歩行者や自動車、自転車が分離されていない、狭い道路が多い。	歩行者空間の確保は重要な課題であり、今後の都市づくり政策の参考とします。
25	交通	自転車対策は喫緊の課題だが、都市計画決定された地下駐輪場の整備が進んでいない。	現在、企業者工事を実施しており、令和 4 年度から駅前広場のオブジェ等の撤去工事に着手します。
26	〃	雨の日はタクシーが少ないが、平日の昼間はタクシーが環八まで並んで、道路が渋滞している。	他自治体の実証実験等も参考にしながら、交通結節性と利便性を高める事業（Maas 等）を検討します。
27	〃	将来的には、スマートモビリティやパーソナルモビリティの導入を想定しているのか。	蒲田の地域特性や基盤整備の状況を踏まえ、国の動向などを参考しながら、導入検討します。
28	建物	再開発により、利便性の向上だけでなく、蒲田の良さや魅力が失われないようにしてほしい。	再開発は地権者だけでなく、地域の声を十分に踏まえ、地域の合意形成を図るよう指導します。
29	〃	人の回遊性を生むため、イラストのように、まちを立体的に活用してください。	地区の特性や社会状況等を踏まえ、適切な都市計画諸制度等を検討します。
30	防災	蒲田は、風水害の親水リスクエリアとなっている。防災活動拠点は、分散配置するべき。	水害に強いまちづくりを位置付け、浸水リスクの対応についても研究します。
31	UD	環状 8 号線と国道 15 号が立体交差でなく、長い横断歩道で失望した。	国や東京都等の関係部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考にします。
32	自然・環境	これからのまちづくりには、環境が一番重要だと考えている。	環境への配慮は重要であり、環境にやさしいまちの実現に向けた取組を進めます。
33	〃	貴重な自然環境に位置付けられた呑川について、沿道の歩行者空間の魅力を高めてほしい。	呑川は貴重な環境資源であり、歩行者空間の魅力向上に重要な要素であると認識します。
34	〃	呑川沿いの整備と共に、水質改善等、呑川自体の改善がなされることを望む。	東京都や流域自治体と連携し、呑川の水質や環境改善対策を推進します。
35	〃	交通結節機能や災害活動機能を継続するためのエネルギー確保が重要である。	
36	〃	通常の非常用発電では対応が困難な停電への備えを充実させる必要がある。	インフラ整備に係る関係機関や事業者とも連携し、安全・安心な拠点の形成を推進します。
37	〃	蒲田地区は、地域の人、来街者、子どもが安らぐ公園が少ない。	人々が集い、緑あふれる空間の創出やきれいな公園づくりなど、環境活動を推進します。
38	その他	京急蒲田は変わろうとしており、住みやすく、楽しい商業と長く暮らせるまちづくりをお願いします。	
39	〃	京急蒲田では、再開発の検討を進めており、区の支援と協力をお願いします。	区民・事業者と協力しながら、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進めます。

改定蒲田駅周辺地区グランドデザイン（素案）に対する大田区区民意見手続（パブリックコメント）  
に提出されたご意見の要旨と区の考え方

別紙 2

【募集期間】 令和4年1月17日（月）～2月4日（金）  
【募集方法】 窓口へ直接持参、電子申請、郵送及びFAX  
【意見総数】 16名39件

No.	分類	意見要旨	区の考え方
1	計画全般	対象地区のなかでもいろいろ特徴が違う。住宅ばかりの地域と駅前ではまったく違うため、取組も違ってくると思う。	ご意見のとおり、対象地区においても場所によって特徴が異なることから、5つのエリアに区分し、エリアの特徴に応じメリハリを付けて取組を推進してまいります。
2	計画全般	グランドデザインを実現し、まちの魅力を向上させるためには、地区の中心となる駅周辺の機能強化・機能更新が重要であると考える。よって、グランドデザインの内容に沿った駅周辺基盤施設の一体的整備が実現するよう、早期の基盤整備方針の策定を期待する。	JR・東急蒲田駅を中心とする地区は、まちの骨格となる重要な地区内拠点であることから7章において基盤施設の整備について掲げております。基盤施設の一体的整備の早期実現に向け、着実に推進してまいります。
3	計画全般	地区全体としての回遊性向上・にぎわい創出には、JRと京急をつなぐ東西の都市骨格軸から南北方向へもネットワークを拡大させることが必要と考える。そのため地区内外に点在する「連携施設」の有効活用が行われるよう、施設間のより具体的な連携のあり方について今後の積極的な検討をお願いする。	骨格を中心として生じるにぎわいを地区全体に波及させるため、「連携施設」との連携が重要であります。本地区の活性化、利便性・防災性の向上を図るため、連携のあり方などについて、施設側の状況や意向を踏まえ検討を進めてまいります。
4	計画全般	今後の都市施設・空間はより一層の複合用途化・可変的利活用が求められるものと思われる。よって、機能誘導に際してはエリア別イメージに過度に限定しすぎず、土地の高度利用とニーズに合致した複合用途化を柔軟に実現していくことが必要と考える。	4章「拠点・軸・エリアのまちづくり」においては、各場所で重点的に取り組む各種方策を示しており、特定の用途のみを誘導することを意図したものではありません。本地区は様々な用途が混在する複合市街地であることが特徴の一つであります。特徴を活かしながらも各場所ごとに必要な機能を誘導してまいります。
5	計画全般	「まちの将来像」は、蒲田駅周辺地区でなくとも当てはまる。蒲田駅周辺はこうあるべきという明確なコンセプトを出していただきたい。	1章で示す広域的な視点から見た地区の役割や地区を取り巻く状況、2章で示す特徴や課題等を勘案し、将来像を導き出しております。
6	計画全般	P.75について、東西連絡通路により駅東西を一体化するのは良いが、駅から人の流れをまちに導いていく方策が必要ではないか。蒲田駅の乗降客は23区内でも屈指の数だがまちに出る人は限られている。ハードだけでなくソフトも含めた方策が必要ではないか。	ご意見のとおり、駅利用者をまちへと導き、活力やにぎわいを創出していくことが重要です。そのため、東西自由通路や駅ビルとまちを繋ぐ駅前広場などの整備の他、都市骨格軸を形成する道路等については、利活用を見据えた空間の形成に向け検討してまいります。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
7	計画全般	「蒲田を取り巻く状況の変化」をどう捉えてまちづくりを考えていくのか示して頂きたい。特に人口減少化やアフターコロナについて。	都市の構造は短期間で急速に変化するものではないことから、これまでの課題を踏まえた都市づくりを着実に進めるのに加えて、今後は、新型コロナ危機を契機として生じた変化に引き続き注視し、国や東京都の方針とも連携しつつ柔軟に対応してまいります。
8	計画全般	地震などの災害時に対応できるまちづくりは重要であると考えますが、景観をすっかり変えてしまうことが蒲田のまちの魅力になるとは思えない。 仕事帰りの人々が立ち寄る飲み屋が多い街というのも蒲田ならではののではないかと。その街、その街で持っている役割のようなものがあると思う。蒲田の役割を考えた時、洗練された街ではけっしてないと思う。	ご意見のほか区民参画としてのワークショップや座談会などの機会においても、文化や下町の要素、界隈性を活かしてほしいと多くのご意見いただきました。本グランドデザインにおいても「まちの特徴」として掲げ、特徴を踏まえた将来像や具体的な取組（アクション）を示すなど、「蒲田らしさ」を活かしながらまちづくりを進めてまいります。
9	計画全般	「第4章 拠点・軸・エリアのまちづくり」には街づくりのゴールとしてであろう街の景観についてのイラストが掲載されているが、現在の街の状況とは共通点がなく、道路等の再整備に加え、商店や飲食店等も多くが退去ないし入れ替えて新設するような状況を想定されているように見受けられる。	
10	計画全般	「第2章 まちの特徴と課題」の中で、蒲田のまちの特徴として「個性ある蒲田特有の文化（蒲田食文化や 下町の要素）」が最初に挙げられており、この点には強く同感する。しかし、このグランドデザインに従えば、下町の風情や、小規模の飲食店が作り出しているその食文化などは失われてしまうであろうと思われる。再開発によって下町の情緒は作り出すことが出来ず、それはもう別のものである。	
11	計画全般	5-2.まちづくり分野別方針について、優先順位は分からないが、まちの事を考える時一番大切なことは私は人だと思うので、分野別方針1は「暮らし」であるべき。	分野別方針等における番号については、優先順位を示しているものではありません。 各種取組をエリアの特徴等に応じてメリハリを付けて進めてまいります。
12	計画全般	絵空事である。	グランドデザインは将来20年先（2040年代）を見据え、将来像を描き、その実現に向けた方針・取組を示しています。当該地区が将来に渡り持続的に発展していくため、着実にまちづくりを進めてまいります。
13	商業	蒲田駅は東西自由通路の整備だけで十分である。 商店街は衰退しているのだから、これ以上負担を掛けてどうするのか。 老朽化している東西駅ビルを建て替えてもらったら良いのではないかと。	個性的で魅力ある店舗や商店街は、「まちの特徴」にもあるように、蒲田のまちを構成する重要な要素の一つです。蒲田の東西自由通路の整備や駅ビルの機能更新だけでなく、駅からまちへ来街者呼び込み、回遊してもらえよう、商業の集積や担い手支援等にも取り組んでまいります。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
14	商業	蒲田は商店街などでにぎわう街だと思うので、駅ビルだけではなく、商店街や商店も頑張っていたきたいので、商業に力を入れるべきだと思う。	個性的で魅力ある店舗や商店街は、「まちの特徴」にもあるように、蒲田のまちを構成する重要な要素の一つです。持続的に商業が発展するよう、商業の集積と担い手支援等に取り組んでまいります。
15	商業	「第6章 まちづくりの取組（アクション）」には取組として「商業やまちの魅力を広げるイベント等の拡充」とあります。現状でも商店街などではイベントを実施されているが、新たな取り組みとしてどれぐらいの来場者を見込み、どれほどの利益を出すものとイメージされているか。	既存イベントの継続的な開催や拡充に加えて、新たな取組に繋がるよう、公共空間やオープンスペースを活用したイベントの開催や商店街・個店の魅力を発信する戦略的なPR活動を支援していくことで、より多くの来場者を誘引し、にぎわいの形成を図ってまいります。
16	産業 ビジネス	P.50 取組2-③「ビジネスパーソンが快適に働くことができる環境の充実」において、まちなかの小さなワーキングスペースの誘導とあるが、具体的に、まちなかの小さなワーキングスペースを誘導するための都市計画施策はどういったものがあるのか。	「小さなワーキングスペース」を誘導するための手法として、再開発に伴う機能導入や空きオフィスや空き家の活用（リノベーション）、必要に応じた各種法令の許可制度の活用などが考えられますが、具体的な施策については、地区や社会状況を踏まえ、適切な手法を選択してまいります。
17	暮らし	分野別方針3について、蒲田は、男、大人のまちのイメージが強く、女性、子供に対しての「やさしさ」が感じれない。女性、子供、高齢者に対する考え方が必要と思う。蒲田地区には女性、子供、高齢者に対する施設が少ないと感じる。	分野別方針10において、「誰もが使いやすく人にやさしいまち」に向けた方針と取組を掲載しております。頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。
18	観光	P.51 取組4-③「来街者の快適な滞在を支える施設の充実」において、「宿泊機能を誘導する」とある。近年、蒲田には宿泊施設が数多く建設されているが、何か大田区の誘導施策が効果を発揮したのか。 また、蒲田にあるのは、宿泊特化型ビジネスホテルばかりである。グレードアップした質感のあるシティホテルが稼働するようになると、蒲田の街の質も上がる。 質感のあるシティホテルを誘導する都市計画施策は検討されているのか。	どのようなグレードの宿泊施設を誘導するかは、社会状況や市場動向等も踏まえつつ、都市開発諸制度など、効果的な都市計画手法も活用しながら検討してまいります。
19	駅・駅前広場	JR・東急蒲田駅の西から東へは行きづらく、難である。ペDESTリアンデッキ等が出来たら良いと思う。小綺麗なまちづくりも良いが、蒲田らしい少し乱雑な他にはないまちづくりを推進して欲しい。治安の悪化に考慮した上で人間味溢れる蒲田を希望する。コミュニティバス路線を東西に渡って設定して欲しい。	JR・東急蒲田駅東西の円滑な移動を実現する取組として、5-②「駅東西の分断を解消し、鉄道の乗換えを円滑にするJR・東急蒲田駅東西自由通路の整備」を位置づけております。また、蒲田らしい界索性等を大切にしつつも、回遊性や利便性等の向上を図ることが重要であると考えております。誰もが自由にストレスなく移動できるよう、交通モードの活用についても研究してまいります。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
20	駅・駅前広場	地下の鉄軌道整備によるJR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間の接続は、災害時の浸水による機能不全のリスクがあり、大田区西部（多摩川線・池上線沿線）の輸送機能障害を生じかねないため、建設費負担並びに工事延長、想定流動改善効果、乗換時の所要時間増加等も総合的に鑑み、新空港線整備のあり方は見直しが必要と考える。	新空港線は、区内外の移動利便性の向上とともに、蒲田をはじめ沿線のまちづくり及び地域の活性化を進める上でも大きな役割が期待されることから、引き続き重要な施策の一つとして位置付けています。 また、整備に当たっては防災性への配慮についても十分検討してまいります。
21	駅・駅前広場	「第8章 グランドデザインの実現に向けて」など、新空港線の整備が触れられていますが実現性はあるのか。また、実現しない場合、そこまでの検討などを含めた費用の損失などについてどのように考えているか。	なお、頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。
22	駅・駅前広場	P.53 取組5-①「区内の円滑な移動と広域的な利便を生む新空港線整備の推進」において、「区内の円滑な移動」とある。令和3年12月23日開催の大田区と東京都の間での「新空港線及び沿線まちづくり等の促進に関する協議の場（第4回）」において、乗換利便性の向上が課題となっている。鉄道を引いたからといって、その乗換利便性が低ければ、区内の移動の円滑化は達成されないといえる。グランドデザインに、新空港線の乗換利便性を向上させるようなアイデアが検討されているべきだと思う。そうでなければ、取組5-①は矛盾にあふれた取組と言わざるを得ない。グランドデザインの何ページに新空港線の乗換利便性を向上させるアイデアが記述されているか。	新空港線は、区内外の移動利便性の向上とともに、蒲田をはじめ沿線のまちづくり及び地域の活性化を進める上でも大きな役割が期待されることから、引き続き重要な施策の一つとして位置付けています。 乗換利便性については、東西自由通路の整備や駅ビル等の更新の機会を捉え、関係者と協議・調整しながら検討してまいります。
23	歩行者空間	歩行者空間の確保は必須とし、早急に着手いただきたい。「濡れずに快適に移動できる」を希望する。例えば、福岡の天神駅・天神南駅の乗り換えは距離こそ離れているものの「濡れずに快適に移動できる」ため苦ではなかった。チェーン店はもちろん、街の食文化や歴史を感じる蒲田ならではの店舗の整備も行うことで、蒲田ストリートなら日本で最も魅力ある連絡通路が構成できるものと思う。	ゆとりある歩行者空間の創出や道路空間の再編等について検討するとともに、商業の連続性確保に資する取組などを実施し、魅力あるストリートの創出を目指してまいります。 頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。
24	歩行者空間	分野別方針6について、狭あい路（歩車分離）されない道路が多い。	蒲田のまちの都市基盤は、主に戦災復興の土地区画整理事業により整備されており、現在に至っている箇所が多くあります。本グランドデザインにおいても歩行者空間の確保などを重要な課題として掲げており、頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
25	交通	P.56 取組7-①「地域住民の移動を支え利便性の高い自転車駐車場の整備」において、東口地下自転車駐車場の整備とあるが、東口地下自転車駐車場の整備は2016年に都市計画決定され、土地の買収も済んでいる。自転車対策は喫緊の課題であるはずだが、なぜ着手されていないのか。駅ビル建替を待っているのか。	東口地下自転車駐車場の整備については、現在、事業者によるインフラ関係の地下埋設物支障移設に着手しており、管路の撤去工事等を実施しているところです。事業期間内の完了をめざして整備を進めております。
26	交通	P.56 取組7-③「自由な移動を支える先端技術と交通モードの活用」については、理想的で良いと思うが、蒲田のタクシーの需給ギャップをどう分析されているか。 蒲田駅東口では常に、朝と夜のピークタイムや天候の悪い日は、タクシーがほぼおらず客が長蛇の列を作りストレスを感じている。一方で、午後の早い時間帯は、客もいないのにタクシーが環八まで列をなしていることもある。 大田区として蒲田周辺のタクシー需要予測はしていないのか。 MaaSといったバズワードをランドデザインに書いて並べるだけでなく、MaaSを生かして蒲田のタクシー需給をマッチさせるなど具体的な計画を示していただいたら良いかと思えます。	区において蒲田駅周辺のタクシー需要予測はしておりませんが、現状については十分に認識しております。限られた空間のなかで、交通結節性、利便性を高めるため方策の一つとして、MaaS (Mobility as a Service) など先端技術の活用も含め、国の動向や他自治体の実証実験の結果等を参考にしながら、必要に応じて検討してまいります。
27	交通	鉄軌道交通とバス等の交通結節点となっているが、さらに将来的に多様なモビリティに対応できる都市構造を構築するため、駅前に鉄軌道改札口レベル・立体都市空中回廊レベルで、大規模商業施設内での垂直移動も可能なスマートモビリティ、パーソナルモビリティとの接続交通広場を設ける。これによりJR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間をスマートモビリティ、パーソナルモビリティで接続を可能とし、従来からの自動車交通との交錯を最小限化し、歩行者空間の安全性確保と高齢者・交通弱者も含めた移動の円滑化を図る。 また、羽田空港との接続には空中輸送サービスを可能とする空中ポートを駅前のビル屋上等に設けることを想定する。	スマートモビリティ、パーソナルモビリティなどの導入については、蒲田の地域特性や基盤の整備状況を勘案しつつ、国の動向や他自治体の実証実験の結果等を参考にしながら、検討してまいります。
28	建物	再開発により、蒲田の良さのうち、便利さだけは担保されたが、親しみやすさや人情の濃さは、失われているように見受けられる。長年馴染んできた住民にとって、街並みを失うことは相当な負担を強いるものである。そこまでして、さらなる大規模な再開発を進める積極的な意義がどれほどあるのか。	市街地再開発事業は、一般的に地権者の皆様の発意と合意をもとに検討がなされ、推進されるものと考えております。その検討・立案過程においては、当事者である地権者はもとより、周辺住民や地域の声を十分踏まえ、合意形成を図っていくよう、事業者等に対して指導・助言を行ってまいります。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
29	建物	P.30 都市機能集積エリアのスケッチについて、建物の2階をサービス業態用途として、まちのにぎわいを立体的に創出する良い印象であるが、スケッチのイメージがランドデザインに反映されてなければもったいない。 建物の1階に商業利用を誘導することは当然として、建物の2階にサービス業態を含めた商業利用を誘導するための、都市計画施策を検討しているか。 蒲田の現況は、建物の2階以上は、事務所か住居がほとんどだと思う。それでは、大田区を中心としての人の回遊を生むのには足りない。 スケッチのイメージのように、まちを立体的に活用してください。	取組8-①「建物の更新や活用が進むまち」において、低層部に商業や業務、中層部に業務や住宅を誘導する取組を示し、将来イメージに反映しております。 本文では手法の紹介として地区計画を挙げておりますが、具体的な施策については、地区や社会状況等を踏まえ、適切な手法を選択してまいります。
30	防災	蒲田駅周辺地域は大田区内の行政サービスの中核を担う拠点エリアでありながら、風水害における浸水リスクエリアとなっている。 災害時も住民の安全確保、産業への影響を最小限とするため、防災拠点として想定浸水深を考慮したインフラの整備、民間投資も活用しながら防災拠点施設を分散配置することが必要と考える。これらの防災拠点施設を連続的に接続しながらJR・東急蒲田駅と京急蒲田駅間を、立体都市としてアーケード機能を持たせた空中回廊で接続する。	本地区は、区を中心拠点であり、多くの人や都市機能が集積することから、分野別方針9に掲載する地震や都市型水害に強いまちづくりを進めてまいります。浸水リスクへの対応については、まちづくりの機会を捉えて関係者と意見交換するなど研究を進めてまいります。
31	ユニバーサルデザイン	環状8号線、国道15号線を立体交差にするならともかく、長距離の横断歩道のままで失望した。 イラストに車いすの方、杖をついた方、歩行器を押して歩いている方がいない。	方針の一つである「誰もが使いやすく人にやさしいまち」が感じられるようイラスト表現に修正します。 頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。
32	自然・環境	これからのまちづくりで一番大切なのは、環境への配慮だと思うので、区には特に頑張っていたきたい。	ご意見のとおり、環境への配慮は今後のまちづくりにおいて重要な取組であると認識しております。分野別方針12において自然や環境について方針を示すとともに、5つの取組を掲げております。それら取組により環境にやさしいまちを目指してまいります。
33	自然・環境	貴重な環境資源と位置づけられた呑川について沿道の歩行者空間を更に魅力を高めるよう、テラスの整備や親水エリアを設ける。併せて、災害時には船舶による人荷輸送も可能なポート機能を親水エリアに持たせ港湾部と都市中心部との接続を可能とする。	呑川は貴重な環境資源であり、歩行者空間の魅力向上を図る上でも重要な要素と認識しております。頂いたご意見は関連部署と共有し、今後の都市づくり政策の参考とさせていただきます。

No.	分類	意見要旨	区の考え方
34	自然・環境	<p>呑川は蒲田駅周辺地区で、鳥や魚が見られ生物の多様性を感じられる唯一の資源である。</p> <p>西蒲田から蒲田の流域は、上流から雨天時越流水によりもたらされる下水汚泥が堆積しやすい場所となっており、堆積した下水汚泥によりもたらされるスカムや悪臭、白濁化は、近年改善がみられるものとても親水空間として望ましいものとは思えない。</p> <p>今後、呑川沿いの整備がなされると同時に呑川自体の改善がされることを望む。</p> <p>世田谷区や目黒区のように呑川を暗渠化して蓋をすることはないようお願いする。</p>	<p>呑川の水質改善に向けた取組として、取組5-②「潤いを創出する呑川の水質改善」を位置づけ、高濃度酸素水浄化施設の稼働や合流式下水道の改善など、東京都や流域自治体と連携し水質改善対策を推進してまいります。</p>
35	自然・環境	<p>災害発生時、交通結節点として安全確保を図るため、区役所が立地する「新価値創造エリア」などの周辺エリアと連携した避難対応・帰宅困難者対応を強化する必要がある。また、ライフライン途絶時においても、交通結節機能や区役所の災害活動機能を継続するためのエネルギーを確保する必要があることから、以下のとおり変更すべきと考える。</p> <p>■JR・東急蒲田駅前拠点 重点方策 P.25  (3) 交通結節点にふさわしい都市機能を強化します  【変更（追加）】  ・災害発生時の安全確保のための周辺エリアと連携した 避難対応・帰宅困難者対応の強化、機能継続のための 自立・分散型エネルギーの導入等によるエネルギー確保</p> <p>■新価値創造エリア 重点方策 P.33  (3) 安全で環境にやさしい市街地を形成します【変更（追加）】  ・区役所 における自立・分散型エネルギー導入等による災害時のエネルギー確保</p>	<p>取組9-①において、「災害時にも都市活動の継続が可能な強靱性の高い拠点の形成」を位置付けており、インフラ整備に係る関係機関や開発事業者とも連携し、安全・安心な拠点の形成を推進してまいります。</p>

No.	分類	意見要旨	区の考え方
36	自然・環境	<p>近年、気候変動に起因して風水害が激甚化・多発化するリスクが一段と高まっており、通常の非常用発電機では対応が困難な長期の停電への備えを充実させる必要があることから、以下のとおり変更すべきと考えます。</p> <p>■分野別方針9：【防災】災害に強いまち P.60 【変更】</p> <p>9-③ 台風・豪雨による都市型水害対策の推進 集中豪雨などによる都市型水害へ対応するため、建築物の更新に併せて雨水流出抑制施設、雨水貯留施設の整備を促進します。また、防水板の設置や電気設備の上層階設置等を働きかけるとともに、長期の停電に備え、再開発や共同化等に際してコージェネレーションシステムなど自立・分散型エネルギーの導入を促進します。</p>	<p>取組9-①において、「災害時にも都市活動の継続が可能な強靭性の高い拠点の形成」を位置付けており、インフラ整備に係る関係機関や開発事業者とも連携し、安全・安心な拠点の形成を推進してまいります。</p>
37	自然・環境	<p>分野別方針12について、蒲田地区は、地域の人、来街者、子供が「やすらぐ」公園が少ない。</p>	<p>まちの将来像にもあるように、「誰もが安心して気持ちよく過ごせる」まちづくりは重要です。そのため、分野別方針12において、緑とにぎわいを感じる公園等の充実等の取組を掲げており、人々が集い、憩う緑あふれる空間の創出やきれいな公園づくり・環境活動を推進してまいります。</p>
38	その他	<p>現在、京急蒲田駅西口地区は古い地域が変わろうとして進んでいる。</p> <p>大田区において京急蒲田地区が重要な地域と考えるなら、区がもっとかかわって、将来にむけた住みやすい、楽しい商業と伴に長く暮せるまちづくりを、願う。</p>	<p>京急蒲田駅前を2つある地区内拠点の1つとして来街者を魅了する拠点を形成すると記載しております。</p> <p>京急蒲田西口地区では、地域の皆様が長年にわたり、街区別の共同化事業を検討し、区もこの活動を支援しております。今後も、「地域力を生かした大田区まちづくり条例」に基づき、区民、事業者と協力しながら、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。</p>
39	その他	<p>現在、京急蒲田センターエリア北地区再開発準備組合では、改定蒲田駅周辺地区ランドデザイン（素案）において取り上げられている「京急蒲田駅前拠点」の将来イメージ実現の一翼を担うべく、市街地再開発による街区や公共施設の再編も含めた共同化の実現に向けて検討を進めている。区のより一層の支援、協力をお願いする。</p>	<p>京急蒲田駅前拠点の形成に向けて、建築物の共同化等に合わせた多様な機能の集積、人々がにぎわう公開空地や街路空間の創出などを重点方策として記載しております。今後も、「地域力を生かした大田区まちづくり条例」に基づき、区民、事業者と協力しながら、誰もが安心して快適に暮らせるまちづくりを進めてまいります。</p>

本グランドデザインは、区全域の都市計画の基本的な方針を示す「大田区都市計画マスタープラン」における地域別方針を具体化する計画として、まちの将来像を描くと共に、地域住民・事業者・行政が一体となってまちづくりを進めていくための目標や方策を示したものです。平成22(2010)年策定から10年が経過するなか、社会やまちの状況の変化に対応し、蒲田が将来に渡って持続的に発展していくため、改定素案を作成しました。

### 1章 地区の位置づけ・役割・まちの変化

(上位・関連計画における位置付け)  
 ・新都市生活創造域、枢要な地域の拠点  
(東京都都市計画 都市計画区域の整備、開発及び保全の方針)  
 ・広域拠点域、中心拠点  
(大田区都市計画マスタープラン)

(広域的な視点からみた地区の役割)  
 ・広域的な拠点性を高める機能 } の強化・充実が  
 ・鉄道沿線の日常的な生活を支える機能 } 求められている

(蒲田を取り巻く状況の変化)  
 ・小売店舗や事業所、工場の減少 ・夜間人口、集合住宅の増加  
 ・駅乗降客数や羽田空港の旅客数、外国人の増加 など

### 3章 まちの将来像

まちの将来像  
 「にぎわいあふれる多文化都市、  
 誰もが安心して気持ちよく過ごせる  
 人にやさしい蒲田」

### 4章 拠点・軸・エリアのまちづくり (※詳細は裏面)

2つの駅前拠点  
 まちを繋ぐ都市骨格軸  
 5つのエリア

の役割や特徴に応じた  
 取組(アクション)を  
 横断的に行う

### 2章 まちの特徴と課題

### 5章 まちづくりの目標と分野別方針

目標1. 文化・交流・にぎわいを生み出す「活動」の創出

目標2. 地域の価値を高める「空間」の充実

目標3. 安心して快適に過ごせる「環境」の向上

- 【商業】 いきいき元気の商業のまち
- 【産業・ビジネス】 産業やビジネスが育つまち
- 【暮らし】 多様な人々が快適に暮らせるまち
- 【観光】 国内外と繋がり、何度も訪れたいまち
- 【駅・駅前広場】 ゆとりを感じる利便性の高い駅と駅前広場
- 【歩行者空間】 歩いてめぐり楽しめるまち
- 【交通】 様々な手段で快適に移動できるまち
- 【建物】 建物の更新や活用が進むまち
- 【防災】 災害に強いまち
- 【ユニバーサルデザイン】 誰もが使いやすい人にやさしいまち
- 【美化・景観】 個性と魅力のあるまち
- 【自然・環境】 自然を感じ、環境にやさしいまち
- 【防犯】 安全・安心なまち

### 6章 まちづくりの取組(アクション)

1-	① 多様なニーズに応える商業の集積と担い手支援 ② 商業やまちの魅力を広げるイベント等の拡充	7-	① 地域住民の移動を支え利便性の高い自転車駐車場の整備 ② 自転車や歩行者等が安全に移動できる自転車走行環境の整備 ③ 自由な移動を支える先端技術と交通モードの活用
2-	① 立地特性を活かした業務機能の誘導 ② 経済活動の活性化を図る産業支援の促進 ③ ビジネスパーソンが快適に働くことができる環境の充実	8-	① 沿道のにぎわいが連続する複合市街地の形成 ② 老朽建築物の建替えと公共施設や街区の再編によるまちの更新 ③ 人々が留まり、にぎわいを生むオープンスペースの整備
3-	① 多様な人々の暮らしを支える施設・サービスの誘導 ② 地区への愛着を育む学びと交流機能の誘導 ③ 豊かな心と文化を育む文化活動の充実 ④ 人々の支えあいを育む交流機会の充実と参加促進	9-	① 災害時にも都市活動の継続が可能な強靱性の高い拠点の形成 ② 首都直下地震等への対策の推進 ③ 台風・豪雨による都市型水害対策の推進 ④ 帰宅困難者等を受け入れる施設や体制の確保 ⑤ 地域住民の防災意識の向上
4-	① 来街者を惹きつけるプロモーションの充実 ② 来街者を迎え入れる体制の充実 ③ 来街者の快適な滞在を支える施設の充実	10-	① 誰にとっても分かりやすいサインの整備 ② 誰もがスムーズに移動できるバリアフリー化の推進 ③ 人々の多様性を認め受け入れるダイバーシティの推進 ④ 先端技術を駆使した環境の整備
5-	① 区内の円滑な移動と広域的な利便を生む新空港線整備の推進 ② 駅東西の分断を解消し、鉄道の乗換えを円滑にするJR・東急蒲田駅東西自由通路の整備 ③ まちの円滑な移動を支えるJR・東急蒲田駅北側通路の整備 ④ まちの顔となる駅・駅ビルの一体的な機能更新 ⑤ 駅と駅を繋ぐ快適な乗換え空間の形成 ⑥ 多様な移動手段や駅とまちを繋ぐ駅前広場の機能向上	11-	① みんなで綺麗なまちをつくる美化活動 ② 蒲田らしい特性や魅力を活かした景観の育成
6-	① 歩行者の円滑な移動と多様な活動を支えるストリートの創出 ② 緑と潤いのある呑川沿いの散策路整備 ③ 歩行者の安全とまちのにぎわいを創出する駐車場の適正化	12-	① 地域とつくる緑あふれる都市環境の創出 ② 緑とにぎわいを感じる公園等の充実 ③ まち全体で取り組む環境負荷の低減 ④ 暑い日もまちなかで快適に過ごせるための暑さ対策 ⑤ 潤いを創出する呑川の水質改善
		13-	① 地域の方でつくる安全な環境の確保 ② 自転車マナーアップと放置自転車対策の推進

### 7章 JR・東急蒲田駅前拠点の施設整備

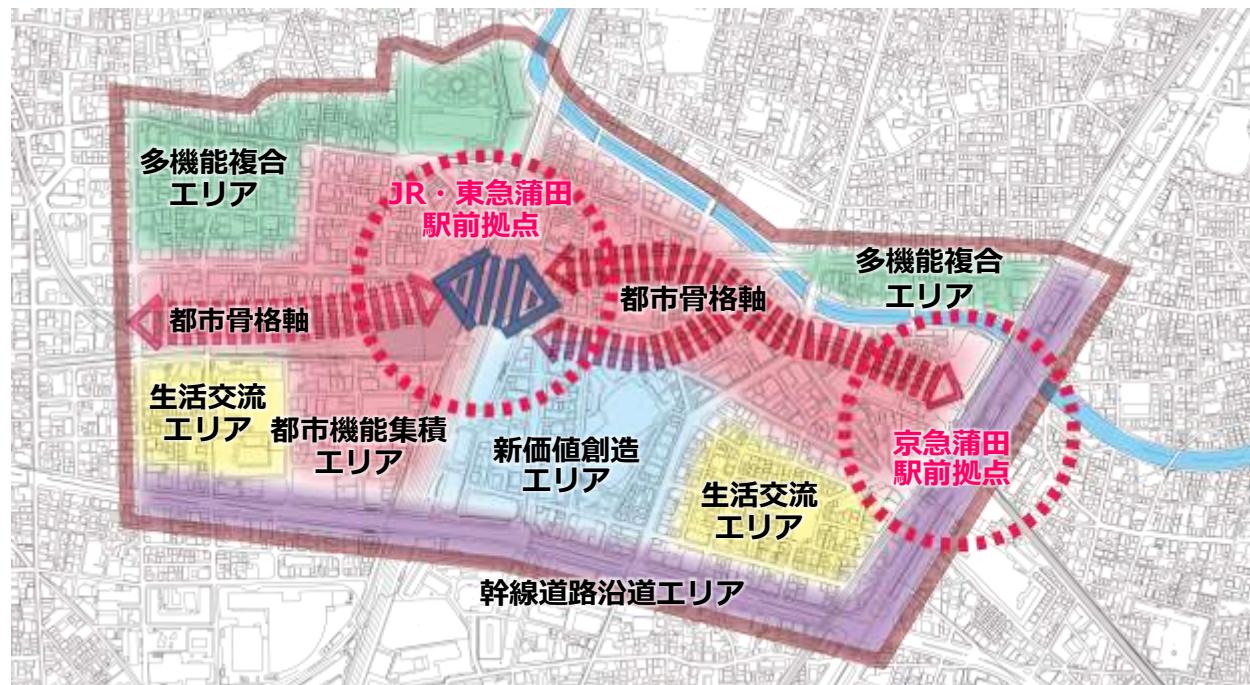
基盤施設が抱える課題 ・ 課題解決の方向性

### 8章 グランドデザインの実現に向けて

協働によるまちづくりの推進 ・ グランドデザインの運用の考え方

第4章 拠点・軸・エリアのまちづくり

各拠点・軸・エリアが担う役割や特徴を踏まえ、各場所で特に重点的に取り組む方策を示します。



地区内拠点



JR・東急蒲田駅前拠点

国内外やまちを繋ぎ、利便性が高くまちの顔となる  
交通結節機能の強化

- (1) 駅の東西、駅とまちを円滑に繋ぐ歩行者空間の創出
- (2) 公共交通の乗換えを支え、にぎわい溢れる駅前空間の創出
- (3) 交通結節点にふさわしい都市機能の強化



京急蒲田駅前拠点

人々をまちに呼び込む、玄関口にふさわしい  
来街者を魅了する駅前拠点の形成

- (1) 国内外からの来街者を迎え入れる玄関口の形成
- (2) 調和の取れたまちなみと安全で快適な歩行者空間の形成

都市骨格軸



都市骨格軸

商業などが連続し、にぎわいの広がりをつくる  
歩いて楽しいストリートの形成

- (1) 沿道のにぎわいが連続するまちなみの形成
- (2) 道路と沿道が一体となったにぎわい溢れるストリートの創出
- (3) 安心して快適に拠点やまちを繋ぐ歩行者環境の形成

エリア



都市機能集積エリア

様々な都市機能が集積し、人々を惹きつけ・留める  
にぎわいの創出

- (1) 商業・業務を中心に多様な機能が集積する複合市街地の形成
- (2) 多様な活動が展開され、にぎわい溢れる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



新価値創造エリア

ビジネス・文化などが集約し、人々の活発な活動・交流による  
新たな価値の創造

- (1) 人々や企業の交流を育み新たな価値を生み出す市街地の形成
- (2) 集い・学び・交流が生まれる空間の創出
- (3) 安全で環境にやさしい市街地の形成



多機能複合エリア

周辺住宅地と本地区を繋ぎ、水と緑を感じる  
地域に根差した活力の創出

- (1) 多様なライフスタイルに対応する市街地の形成
- (2) 水と緑が感じられる生活環境の形成



生活交流エリア

学びや交流の場となる学校や公園などを中心として  
地域への愛着や親しみの育成

- (1) 人々が交流し、繋がりを育む生活環境の形成
- (2) 安全で安心して暮らせるまちづくりの推進



幹線道路沿道エリア

広域的な移動を支え、街路樹や災害に強い建物が立ち並び  
安全で快適な沿道環境の整備

- (1) 安全で安心な幹線道路沿道の整備促進
- (2) 快適で円滑な移動を支える沿道環境の創出